| タイトル | コミンテルン第五回大会における「民族・東方問題にかんする決議草案」　M・N・ロイの反論を中心として |
|-----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------
| 著者 | 松元 幸子 |
| 発行誌名 | 一橋論叢 |
| 発行號 | 68(1) |
| 頁碼 | 48-64 |
| 発行年 | 1972-07-01 |
| 型式 | Departmental Bulletin Paper |
| 文本版 | publisher |
| URL | http://doi.org/10.15057/2120 |
コミンテルンは、その 第 回大会（一九 ）において、民族・植民地問題にかんする決議案（M・N・ロイの反論を中心として）にかんする決議案

松 元 幸 子

かれ民族・植民地問題の検討をおこなってきた。したがって、本稿は、その 第 回大会（一九 ）において、それがどのように展開されたかという問題をとりあげ、それ を、コミンテルン執行委員会が提起した「民族・東方問題にかんする決議案」およびマヌイリスクキー( )の反論に即して検討したい。

一方、この検討によって、つきの二点が明らかになるであろう。一つは、この第五回大会において、マヌイリスクキー報告、たとえばコミンテルンの指導
（49） コミンテルン 第五回大会における「民族・東方問題にかんする決議草案」

この下に、九四年一月に成功した中国の国共合作などを
重要なモーテントとして、植民地および半植民地諸国の反
帝・反封建闘争において、ブルジョア民主主義者との一
時的同盟の可能性を含めた反帝統一戦線の結成を、一九
二〇年以後のテーゼの「具体的方策」として定着させよ
うとした点である。もう一つは、ロイが、コミンテルン
第二回大会において、レーニンの提起した「民族・植
民地問題にかんするテーゼ原案」をもってレーニンと論
争においてロイが展開していた論理の再提起であった
という点である。

私は以下の論説において、コミンテルンとロイとの反
帝統一戦線政策をめぐるこの対立点に光をあて、そ
の意味を考えたい。

一 執行委員会決議草案および
マヌイルスキー報告

A・T・レズニックは、その最近の論稿の中で、「民
族・東方問題にかんする決議草案」以下「決議草案」と
記す）の諸関係を紹介している。この「決議草案」は、コ
ミンテルン執行委員会によって作成され、第五回大会に
提出されたもので、コミンテルンの重要なテーゼ一つ
として採択されるはずのものであった。

その内容をつぎのように要約しておこう。

それは、第一に、植民地および半植民地諸国の共産党
は、帝国主義との同盟を主張しているが、ブルジョア主
義、軍国主義、および半植民地諸国の民族的政府を支持と
した計画を強化するようにすべきである。第二に、この反
帝統一戦線において、公党が中心で、ブルジョアジーに
たいする日和見主義に陥ることを避けるために、また
共産党・労働者の日常の要求のために闘う。未だ若く
も、共産党・労働者の日常の要求のために闘う。未だ若く
弱小な共産主義組織を民族解放運動全体の陣営の中に没
してしまい、危険性にたいして闘う必要がある。またそれ
とともに、共産党が革命の民族ブルジョアジーを支持す

49
一橋論叢 第六十八巻 第一号 (50)

場合、国の政治的独立、経済的福祉の根拠、民主主義
革命の完成のための闘争にたいしてこれらのブルジョア
ジーがどの程度の決意をもっているかを検討することが
必要である。第三に、広範な農民階級有権者の要求を支
持することによって、かれらを民族解放運動に引き入れ
一歩一歩によってひき起こされたものであるとした。

その論点を父のブルジョアジーと
帝国主義による軍事的圧力と土着ブルジョアジーにたいする

خروがあり、あらゆる形態の反帝闘争を援
助することを明記し、民衆地社会の民族解放運動は（中
国トルコ、ペルシャ、モロッコ、フィリピンの諸事件
が示すように）拡張していると「歴史的展望」を示し
ている。しかし、ただ若干の諸国（なかでもインド）で
は、民族運動は衰退しつつあるとする指摘し、これは、帝国

この場合、反帝統一戦線戦略が最初にテーゼ化されて
いる「九二〇年の東方問題にかんするテーゼ」の中で
の到するクライアント、とその間では見解を異にしており,
は、執行委員会とイコの間では見解を異にしており,
ロイの見解についてはのちに検討するが、少なくとも、執
行委員会は、現在の具体的状況の中で、第三回大会テ
ーゼをより「層級化させる方策」としてこれを提出して
いる。
コミンテルン第五回大会における「民族・東方問題にかんする決議案」

第四の問題としてまとまった内容に留意しておく必要がある。

第四の問題としてまとまった内容に留意しておく必要がある。それは、「革命的・統一戦線をうまくとる具体的形態」と関連があると考えられるものである。これは、マヌイルスキがその報告の中で述べているように、「革命的・統一戦線をうまくとる具体的形態」と関連があると考えられるものである。

この問題をまったく無視したことは、もちろん、これほんたくいうようなことである。その一つは、第二回大会以降の期間において、政治的・経済的環境が決して不利な状況である。したがって、这些问题についての報告をする必要がある。これは、マヌイルスキがその報告の中で述べているように、「革命的・統一戦線をうまくとる具体的形態」と関連があると考えられるものである。

この問題をまったく無視したことは、もちろん、これほんたくいうようなことである。その一つは、第二回大会以降の期間において、政治的・経済的環境が決して不利な状況である。したがって、这些问题についての報告をする必要がある。これは、マヌイルスキがその報告の中で述べているように、「革命的・統一戦線をうまくとる具体的形態」と関連があると考えられるものである。

この問題をまったく無視したことは、もちろん、これほんたくいうようなことである。その一つは、第二回大会以降の期間において、政治的・経済的環境が決して不利な状況である。したがって、这些问题についての報告をする必要がある。これは、マヌイルスキがその報告の中で述べているように、「革命的・統一戦線をうまくとる具体的形態」と関連があると考えられるものである。

この問題をまったく無視したことは、もちろん、これほんたくいうようなことである。その一つは、第二回大会以降の期間において、政治的・経済的環境が決して不利な状況である。したがって、这些问题についての報告をする必要がある。これは、マヌイルスキがその報告の中で述べているように、「革命的・統一戦線をうまくとる具体的形態」と関連があると考えられるものである。

この問題をまったく無視したことは、もちろん、これほんたくいうようなことである。その一つは、第二回大会以降の期間において、政治的・経済的環境が決して不利な状況である。したがって、这些问题についての報告をする必要がある。これは、マヌイルスキがその報告の中で述べているように、「革命的・統一戦線をうまくとる具体的形態」と関連があると考えられるものである。

この問題をまったく無視したことは、もちろん、これほんたくいうようなことである。その一つは、第二回大会以降の期間において、政治的・経済的環境が決して不利な状況である。したがって、这些问题についての報告をする必要がある。これは、マヌイルスキがその報告の中で述べているように、「革命的・統一戦線をうまくとる具体的形態」と関連があると考えられるものである。

この問題をまったく無視したことは、もちろん、これほんたくいうようなことである。その一つは、第二回大会以降の期間において、政治的・経済的環境が決して不利な状況である。したがって、这些问题についての報告をする必要がある。これは、マヌイルスキがその報告の中で述べているように、「革命的・統一戦線をうまくとる具体的形態」と関連があると考えられるものである。

この問題をまったく無視したことは、もちろん、これほんたくいうようなことである。その一つは、第二回大会以降の期間において、政治的・経済的環境が決して不利な状況である。したがって、这些问题についての報告をする必要がある。これは、マヌイルスキがその報告の中で述べているように、「革命的・統一戦線をうまくとる具体的形態」と関連があると考えられるものである。

この問題をまったく無視したことは、もちろん、これほんたくいうようなことである。その一つは、第二回大会以降の期間において、政治的・経済的環境が決して不利な状況である。したがって、这些问题についての報告をする必要がある。これは、マヌイルスキがその報告の中で述べているように、「革命的・統一戦線をうまくとる具体的形態」と関連があると考えられるものである。

この問題をまったく無視したことは、もちろん、これほんたくいうようなことである。その一つは、第二回大会以降の期間において、政治的・経済的環境が決して不利な状況である。したがって、这些问题についての報告をする必要がある。これは、マヌイルスキがその報告の中で述べているように、「革命的・統一戦線をうまくとる具体的形態」と関連があると考えられるものである。

この問題をまったく無視したことは、もちろん、これほんたくいうようなことである。その一つは、第二回大会以降の期間において、政治的・経済的環境が決して不利な状況である。したがって、这些问题についての報告をする必要がある。これは、マヌイルスキがその報告の中で述べているように、「革命的・統一戦線をうまくとる具体的形態」と関連があると考えられるものである。

この問題をまったく無視したことは、もちろん、これほんたくいうようなことである。その一つは、第二回大会以降の期間において、政治的・経済的環境が決して不利な状況である。したがって、这些问题についての報告をする必要がある。これは、マヌイルスキがその報告の中で述べているように、「革命的・統一戦線をうまくとる具体的形態」と関連があると考えられるものである。

この問題をまったく無視したことは、もちろん、これほんたくいうようなことである。その一つは、第二回大会以降の期間において、政治的・経済的環境が決して不利な状況である。したがって、这些问题についての報告をする必要がある。これは、マヌイルスキがその報告の中で述べているように、「革命的・統一戦線をうまくとる具体的形態」と関連があると考えられるものである。

この問題をまったく無視したことは、もちろん、これほんたくいうようなことである。その一つは、第二回大会以降の期間において、政治的・経済的環境が決して不利な状況である。したがって、这些问题についての報告をする必要がある。これは、マヌイルスキがその報告の中で述べているように、「革命的・統一戦線をうまくとる具体的形態」と関連があると考えられるものである。

この問題をまったく無視したことは、もちろん、これほんたくいうようなことである。その一つは、第二回大会以降の期間において、政治的・経済的環境が決して不利な状況である。したがって、这些问题についての報告をする必要がある。これは、マヌイルスキがその報告の中で述べているように、「革命的・統一戦線をうまくとる具体的形態」と関連があると考えられるものである。
一橋論壇 第六十八巻 第一四号 (52)

さきにも指摘しておいたように、「決定案」のうち、第四の命題としてのもの、このマサイネスキー報告の第一グループにかかってつつぎのような指摘に具体的なあら

えられているとみることができる。

「最近、多くの労働者、大衆の間で、反帝闘争において

比較的急進的な調子をもつ労農党、結成する傾向があ

とる。このような傾向は、たとえば、オランダ領インド、

中国における労農党、結成の結成、さらに

ない帝国主義的圧力を反対する闘争において一般的革

命戦線の具体的な組織形態はどうあるべきか、について

考えてよい。これらの問題が起こったとき、コモンブルン

において決定を与えたことをわれわれは知っている。（まっ

いずれに決定を与えられたことも知っている。）共産

党の各支部は、重の危険に直面している。すなわち、東

側諸団体、革命的同盟を結ぶ問題のま共産主義者

展以後の諸国でのこのような結成する際、共産主義者

がイデオティックに、このように党を結成する際、共産主義

の性格を失う危険である。また、われわれ、この種の

方を否決化している諸現象を無視する危険、および小資

ルージュ＝共産主義者、そして小資

の劣勢をしたのは、中国の共産主義者们的影響によるもの

な態度をとったのは、中国の共産主義者们的影響によるもの

について論じている。
このマヌイルスキーが、『中国国民の結成』という民族・植民地問題にかんする反論では、中国国民党・全大会を指していると考えられる。大会の五ヶ月前、『連続共労農扶助』を新方針として開催された中国国民党・全大会を指していると考えられる。つまり、中国における正式の国共合作である。このような国共合作の方針では、中国における正式の国共合作である。このような国共合作の方針を改めることが必要である。このように中国において正式に国共合作があることを示すたびに、マヌイルスキーの報告においては、中国の民族運動は、真に中国の民族運動だという理由で、それらを改めることが必要である。
執行委員会は民族解放運動とより直接的な接触を発展させなければならない。と。なるほど、われわれは常にこの民族運動と接触を保たなければならない。さらに、これらの接触が常に成功するとはかぎらない。ところが、われわれの分担する事務を協力して進めることは、直接的な接触をもたなければならない。しかし、決議は、われわれが民族解放運動と直接の接触をもたなければならないと云った。このことはあらゆる階級とあらゆる対象を含むものである。もしわれわれがこの曖昧な規定を支持するなら、われわれは決して進歩しないし、ロイが提出したという修正案の内容についてはもしかるが、それも明瞭にしている。それにはかつのようにのべられている。

「あらゆる重要な植民地および半植民地諸国（エジプト、インド、トルコ、ベルシャ、オランダ領インド、中国、フィリピン）における実際的なプノリア民族主義の運動が、仏帝主義との妥協をおこなったという事実を考慮に入れるとき、公式は……かなれなければならない。帝国民主主義と同盟して土壇の
反対する統一戦線という形態は死んでいる。農民の闘争は、インドの地主にたいする抗争として、インドの資本家に反対するインドの都市労働者の闘争であり、インドの資本家に反対するインドの都市労働者の闘争であり、インドの資本家に反対するインドの都市労働者の闘争であり、インドの資本家に反対するインドの都市労働者の闘争であり、インドの資本家に反対するインドの都市労働者の闘争であり、インドの資本家に反対するインドの都市労働者の闘争であり、インドの資本家に反対するインドの都市労働者の闘争であり、インドの資本家に反対するインドの都市労働者の闘争であり、インドの資本家に反対するインドの都市労働者の闘争であり、インドの資本家に反対するインドの都市労働者の闘争であり、インドの資本家に反対するインドの都市労働者の闘争であり、インドの資本家に反対するインドの都市労働者の闘争であり、インドの資本家に反対するインドの都市労働者の闘争であり、インドの資本家に反対するインドの都市労働者の闘争であり、インドの資本家に反対するインドの都市労働者の闘争であり、インドの資本家に反対するインドの都市労働者の闘争であり、インドの資本家に反対するインドの都市労働者の闘争であるから、いわゆる今日では民族運動は階級闘争によって分裂している。どちらの階級と合われれば、「直接的接触」をもつべきだ。

三 執行委員会とロイの対立点の検討

以上において、コモンテルン執行委員会の提案点を明確にしており、その問題を闘争する方針は、「第二回大会の諸決議を再議するのではなくして、現在の具体的情勢の中、それらを支持することは正しい」とするにあたる。

ロイは、この原則的問題は基盤として、翌一九二一年のコモンテルン第三回大会では、既に、民族地・農民・労働者の統一戦線の必要性を提起し、さらに一九二二年の第四回大会では、東方問題に関する決定案において、この反対統一戦線戦略を提議している。そして、この提案は、具体的に、ロイの第三回大会の提議であるが、同じ第二回大会テーゼに立脚した「決定案」が、同様第二回大会テーゼに立脚したものと考えられたロイの見
コミンテルン第五回大会における「民族・東方問題にかんする決議草案」

解釈と対立しなければならなかったのか。第一回大会テセージ、いわゆる後進諸国の農民ソヴェクト等々を植民地化するに至ることによって、先進国のプロレタリアートの援助をもって、後進国はソヴェクト制度に基づく、資本主義の発展段階を経て、共産主義の発展段階を経て、ついに通じようとしている一つの点は、この非資本主義の発展の命題があった。しかし、この非資本主義の発展の命題はロイの論理の中で若干混同して使用されているがことわざの反響の中で位置づけられることが確認された。ロイについてのうわさの命題を確立し、理論的に基礎づけることが必要である。

ロイが示した理论の中で若千混同して使用されているがことわざの反響の中で位置づけられることが必要である。

ロイが示した理論の中で若千混同して使用されているがことわざの反響の中で位置づけられることが必要である。

ロイが示した理論の中で若千混同して使用されているがことわざの反響の中で位置づけられることが必要である。

ロイが示した理論の中で若千混同して使用されているがことわざの反響の中で位置づけられることが必要である。

ロイが示した理論の中で若千混同して使用されているがことわざの反響の中で位置づけられることが必要である。

ロイが示した理論の中で若千混同して使用されているがことわざの反響の中で位置づけられることが必要である。

ロイが示した理論の中で若千混同して使用されているがことわざの反響の中で位置づけられることが必要である。

ロイが示した理論の中で若千混同して使用されているがことわざの反響の中で位置づけられることが必要である。

ロイが示した理論の中で若千混同して使用されているがことわざの反響の中で位置づけられることが必要である。
公共主義組織が未だ確立されていないという実情を
考慮に入れている。
これにたいするこのロイの反論は、国際情勢がと
もかく、マヌエルスキーにあるする反論にもみられるよ
うに、インド国内におけるあの情勢認識から出発して
いる。つまり、さきに述べたように、ロイは、民族解
放運動における統一戦線は階級闘争によって分裂してい
ると主張しているのであるが、その論拠は、インドにお
いて一九二〇年には統一戦線を可能にしていた情勢が一
九二〇年以降、本大会に至るまでのロイの著作をみ
かけることから、この「情勢の変化」の解決手法として
主張することができる。ロイは、たとえば、一九二〇年七月
日付のインプレス誌に、インドにおける政治
情勢の変化を論じる論文を載せ、この中で「主幹階級の利益
が第一義的に考慮されたバルドル理論の全義(一し
七条)を掲げ、公共主義指導の裏切りによって民
国会議派の運営委員会において、農民は主計および政
府にたいして、それまでの運動とはまったく背反して、
このバルドル理論の全義に関
目覚めつつある大衆の活動をおそれたるゆえにこの運動
に「止め」の号令をかけたのである。そして、この運動
が、実際かかれ自民時代の新政策に結びついている地主
階級の利益をさかやかし始めたために、かれらは大衆
の活動をおそれたのである。大衆運動に対して段階的
的の問題が一九二〇年における民族解放の分岐点であっ
（59） コミンテルン第四回大会における「民族・東方問題についての決議草案」

...たたかう。これが運動をつぶさぬ力である。これを、コミンテルン第四回大会における「民族・東方問題についての決議草案」で述べるように、ロシアの民族運動の動員化した運動においては、労働者が戦線における民族運動の動員を進めるにあたって、ロシアの民族運動の動員化した運動においては、労働者が戦線における民族運動の動員を進めるにあたって、ロシアの民族運動の動員を進めるにあたって、ロシアの民族運動の動員を進めるにあたって、ロシアの民族運動の動員を進めるにあたって、ロシアの民族運動の動員を進めるにあたって、ロシアの民族運動の動員を進めるにあたって、ロシアの民族運動の動員を進めるにあたって、ロシアの民族運動の動員を進められる。...
この推論は、ロイの「イインドの労働者」の立場から出発していると思われる。ロイは、労働者の立場から出発し、社会の構造を解釈するために、多くの理論を用いており、その中の一つが「階級社会」である。ロイは、階級社会の構造を理解するために、さまざまな理論を用いており、その中には「階級社会」がある。

階級社会とは、社会の構造を理解するために、多くの理論を用いており、その中の一つが「階級社会」である。ロイは、階級社会の構造を理解するために、さまざまな理論を用いており、その中には「階級社会」がある。
家父長制が社会秩序となっている諸国のことである。この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことであり、この家父長制が社会秩序となっている諸国のことである。